



7月11日(火) 校内球技大会



編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
P T A 広報委員会

..... 八幡浜高校芸術発表会

八高サマーフェスタ 2023

6月17日(土)



「みんなのおかげ」

聖流ブロック保護者 笹井 由佳

「みんなのおかげ」これは聖流ブロックの解団式のあいさつの中で、ブロックの六役から口々に出てきた言葉です。ブロック長を務めさせていただいた息子が、今回の体育祭で一番心に残った言葉だったそうです。

「結(ゆい)」と紡ぎ合う心々のテーマを物語るかのように、どのブロックも心を一つに全力でそれぞれの競技や演技に取り組む姿は、正に青春そのもの。灼熱の晴天をも跳ね返すかのような、生徒一人ひとりの熱い想いがひしひしと伝わり、観覧している私達に感動を与え続けた素晴らしい体育祭でした。そんな熾烈なせめぎ合いの中だったからこそ、僅差で総合優勝という結果を勝ち取ることもあったこと、格別なものだったこと、思います。



「副ブロック長、競技、装飾、応援、仮装、会計の自分以外の六役十一名がそれぞれ一生懸命にやってくれたし、ブロックの仲間一人ひとりが自主的に協力してくれたから、ブロック長の自分は特に何もしなくてよかった。」と息子は本心で思っていたからこそ、解団式で六役が口々に「ブロックのみんなのおかげ」と感謝を伝えたことが「みんな同じ思いでいたんだな。」と強く心に響いたのだと思います。

そんな感謝の言葉で溢れる解団式の最後に、みんなGreenのキセキを合唱した時間は、かけがえのない思い出になったことと思います。このような素晴らしい機会を与えて下さった、先生方をはじめ関係各位の皆様方に心よりお礼を申し上げます。



「燃える青春」柏皇ブロック長とてく

柏皇ブロック保護者 楠 理恵

八高に入学してからというもの、コロナ禍で二年連続見に行けなかった寂しさを、最終学年で初めて体育祭を生で見ることができた事に多くの感謝と期待を寄せていたのは、おそらくこの私だけではないと思う。やっこの思いで見られるのは、喜びと同時に、子が命を懸けて燃えていた(笑)

夏休み中は、暑い中、汗だくになってみんなとあれやこれやと応援の準備や練習に明け暮れていたであろう。それも空き時間を利用してあれやこれやと長時間互いの意見を言い合う日々だったと聞いている。大勢の人たちの意見をまとめるという事は、かなり大変であっただろう。皆が前を向いているのに一人だけ横を向いている、ブロックの勝利を得ることはもちろん不可能である。毎日試行錯誤を繰り返して、ようやく迎えた当日。天気は快晴！これはラッキーの兆し！

ついにやってきた応援。今年の順番は一番最後、さて吉と出るか……出だしもスムーズで振りも掛け声もまとまってイケる！と思っていたら、結果は聖流と同じ二位だった。生徒たちは結果を聞いた瞬間、がっかりした表情をしていたが、その瞳にはやきやきという輝きが残っていたように見えた。閉会式が終わると、各ブロックで円陣を組んだ真ん中で、息子の言葉が聞こえてきた。今まで皆で習ってきたことは間違いではない。結果がどうであれ、その過程が大切なんだ！という内容であった。これは剣道においても言えるらしい。大会での勝敗がどうであれ、その日までの練習の過程が大切であり、その内容により人が成長できるかが決まるのだ。この九月で生徒会活動も終わりを迎えるので、今後は受験勉強にも力を入れて、有終の美を飾ってもらいたいと祈っている。最後に、八高生と、素晴らしい感動をありがとう！燃える青春！！





「輝く瞬間、輝く笑顔」

八翔ブロック保護者 高野 優子

長らくの制限に耐え、待ち望んでいた瞬間がやってきました。

マスクを外し大声で叫ぶことの喜び、笑顔で競技に挑む子どもたちの姿を見られること、そしてたくさんの保護者等が参観できたことに喜びと感謝の気持ちが溢れてきました。

グラウンドは迫力ある装飾で、特に話題の大谷選手のパネルが目を引きました。

高校最後の体育祭に息子がブロック長として八翔ブロックの旗を堂々と掲げて行進する姿を見て、成長と責任の重さを感じ胸が熱くなりました。

競技は真剣勝負、仮装ではユーモアも溢れ熱い声援がグラウンド全体に響き渡り、応援では、どのブロックも迫力ある演技で見応えのあるものでした。特に八翔ブロックから湧き出る迫力満点の応援は、一体感があり団結力が大いに発揮された瞬間でした。優勝の瞬間には最高の笑顔があり、その喜びを共有できたことを本当に嬉しく思いました。

息子はブロック長として、たくさんの仲間と絆を深め大切な時間を共有しながら、また一つ成長できたと思います。

終わりに子どもたちを支え励まし導いてくださった先生方をはじめ、お世話になった全ての方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



われら！ 部活動応援隊 ～運動部編～

つなぐ

水泳部 細谷 涼子
保護者

「あのお兄さんたちのようになりたい」小学校から始めた水泳。同じスイミングスクールに通う先輩方の泳ぎと礼儀正しい姿に憧れ、彼は八幡浜高校への進学を決意しました。無事、入学。入部はできた喜びは束の間、やってきたのは偉大すぎる先輩方の栄光の歴史と伝統というプレッシャーと、完治に一月以上もかかった大けがでした。なんとか県総体には出場できたものの、結果はさんざんなもので、息子だけ四国大会へ進むことができませんでした。

自分が招いた結果とはいえず、その時の落胆ぶりは、見ている親でもとても辛いものでした。その辛い経験をとおし、泳いでる時間だけが練習ではないと、日々の時間の使い方や体調管理、擦り傷一つに配慮するようになりました。

そして、キャプテンとして迎えた三年生の県総体の結果は、部員全員が、四国大会出場、「部員全員が、四国大会に出場、それ以上の大会に勝ち進む」と



というのが、彼自身の悔しい思いから生まれた目標でした。しかし、インターハイ出場は途切れ、後輩たちと決勝の場へ立つことができず、先輩と後輩にもうしわけなかつた悔しさが残った結果となりました。試合という、勝ち負けが明確にできる厳しい世界ですが、勝利の栄光それ以上に共に励ましあい、築いてきた同級生、先輩後輩との絆こそ、彼の宝物ではないでしょうか。今回の悔しさを繋ぎ、お世話になった方々に感謝を忘れず、新たに目指す道へ挑戦してほしいと願います。これまでご指導いただきました先生方、コーチ、保護者等の皆様方に心から感謝申し上げます。

ありがとう

卓球部 高橋 裕美
保護者



コロナ禍で、大会はあつても無観客の状態が続いた中、三年になりようやく制限なく声を出しての応援ができるようになり、地区予選を通過し挑んだ県総体。拍手と歓声につつまれた体育館で、一球一球に集中し試合に挑む姿を見ていると胸が熱くなりました。最終戦までもつれた県総体団体戦。負ければ終わり、勝てれば県総体初勝利。ものすごくプレッシャーと緊張の中、勝ち取った勝利の瞬間は忘れられません。とてもいい試合でした。サポートしながら戦ってくれた二年生。同じ中学校の卓球部から約六年間、ずっと一緒に戦い続けてきた三年生の仲間。「卓球を通して得たかけがえのない仲間」「積み重ねてきた経験」これらはすべて宝物になることでしょう。本当にお疲れ様でした。

楽しませてくれてありがとう。私たちはこれからもずっと頑張るあなたたちの応援団長です。

あきらめない！どんなときも

男子バレーボール部 黒田 ゆり
保護者



県大会ベスト8！メンバーの大半が高校からバレーを始めたチームとしては、よくぞここまで頑張ったと思います。

新チームとなつてからなかなかまとまることができず心配していました。でも、大会を重ねるにつれ、チームとしての成長を感じられるようになりました。そして迎えた南予総体決勝。七点差を跳ね返してのストレート勝ち。「あのセツトは落としたと思ったよ」と言った私に「あの点差ならまだ大丈夫と思った」と息子。あきらめない気持ちと、仲間に対する信頼があつてこそこの言葉だと思えました。

この気持ちを忘れずに

陸上競技部 梶原 美代
保護者

「ゴーゴー八高！」競技場に響き渡る部員たちの熱い声援。フィールドでも選手を鼓舞する声がかげられる。

今年は、コロナ禍で制限されていた声出し応援が解禁され、三年振りに活気あふれる競技場に足を踏み入れる事ができました。昨年までは、入場制限や拍手のみの応援で、直接励ましの言葉を掛ける事ができず、もどかしさを感じていましたが、今年はずいぶん違います。保護者等や部員が身を寄せ合いながら、熱い声援を送ることができ、一体感が団結力を感じながら試合観戦ができました。競技に全力を注ぐ子供たちに対して、声を出して応援ができる嬉しさ。今年一年間で、子どもたちは声援の偉大さを経験する事ができたと思えます。応援される事で「自分には仲間がついている。自分を信じよう」という安心感や勇気が湧いてきたことでしょうか。こうした経験をj得る事で、競技面だけではなく、日々の生活の中で、他者を全力で応援することができるような、心温かく素直な人に成長してほしい。

しいと願っています。
子どもたちの側で厳しく、そして温かく支えてくださった先生方にも感謝の気持ちでいっぱいですが、本当にありがとうございます。
これからも私は、子どもたちの傍らでエールを送り続けたいです。
ゴーゴー八高！



みんなに感謝！

女子バスケットボール部
保護者 梅田 幸廣

女子バスケットボール部の皆さん、この三年間楽しかったですが、ミニバスから紆余曲折しながら必死に取り組んできたバスケット。高校では多くの夢や目標を



一生の宝

野球部
保護者 笹井 弘樹

新型コロナウイルスの発生により、生活が一変した二〇一九年二月。次々と大会が中止になり不完全燃焼で終わった三年前であった。
二〇二〇年春、「思いっきり野球をしたい！同じ思いを持った十四人もの仲間が八高野球部に入学した。黒土で汚れた練習着



これからもずっと

男子弓道部
保護者 大橋 美香

大きくなっていく息子の体、めつたに練習試合を見に行けない私でも、充実した部活動の様子が伺えた。部長や監督をはじめ、八高野球部関係者や地域の方々、また、七月の全国高校野球選手権愛媛県大会には、三年生や他部活からスタンド応援もいただき、数えきれないほどの多くの方に支えられた。本当に言葉には表せないほど感謝でいっぱいである。
結果よりも過程。野球を通して得た仲間を一生の宝として、三年生十四名がそれぞれの道を歩んでほしい。
八高野球部の伝統を受け継ぎ、後輩たちのこれからですの活躍を心より願っています。

入学して弓道と出会い、弓道の魅力に引き込まれた選手たち。この奥の深い競技に悩みながらも自分と向き合い、集中力と精神力を鍛えながら成長していく姿を、私たちは親としてずっと見守ってきました。
これも、お忙しい中、ご尽力いただきました顧問の先生方、弓道の礼儀や楽しさを一からご指導くださったOBはじめ諸先輩方のおかげです。心より感謝申し上げます。
息子にも競い合いながらも励まし合い、支え合うかけがえのない仲間ができました。私たちは、これからはずっとこの素晴らしい仲間と弓道部を応援していきます。
「八高弓道部 ばんざい!!」

自分自身に勝つ

柔道部
保護者 水口由加里



中学生から始めた柔道。経験者ばかりの中、全くの初心者ながら練習に励み、努力を重ねてきた息子。コロナ禍により様々な公式試合の中止、無観客試合と、本人たち、保護者等共に涙をのんだ柔道生活でした。それでも、今自分でできることを考え、激しいフィジカルトレーニングを自宅で毎日欠かさず行っている姿を見て、その集中力と継続力に我が子ながら感心しました。久しぶりに通常通り開催された最後の県総体では、病気とケガで満身創痍の中、全力が出し切れず、悔しさを抱えたままの引退となってしまうこと。しかし、武道の精神を学んだこと、仲間とともに励んだ厳しい練習

と、限界を幾度も超え自分自身に打ち勝った自主トレ二ングを継続したことは、必ず今後の人生において素晴らしい糧となることと思います。

ご指導くださった先生方、いつも温かく支えてくださった保護者等の皆様、ありがとうございます。そして、何より息子が柔道を続けてこられたのは、かけがえない仲間の存在がいたからです。本当に感謝しています。柔道部の皆さん、たくさん感謝をありがとうございます。今後の活躍を心から願っています。



感謝

女子テニス部
保護者 下岡 豊子

娘は高校から硬式テニスを始めました。中学生の頃は軟式テニス部に所属していましたが、部活見学での先輩方の活動の様子を見て硬式テニスに興味を持って入部を決心したようです。早いものでそれから約二年半が経ちました。新型コロナウイルスの影響で様々な制限がある中、なんとか最後までやり遂げることができ、親として大変うれしく思っています。

ます。家庭でテニスの話になると「〇〇先輩がな……」「〇〇ちゃん……」してくれて「など話題はチームメイトや先生のことになります。その時の娘の表情はいつも笑顔で生き生きしています。改めて仲間たちや先生方と楽しく部活ができたんだなと感じています。今まで一緒に活動してくれたチームメイトや先生方には感謝の気持ちしかありません。そして温かく生徒を応援してくださった保護者等の皆様にも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。」



ありがとう

剣道部
保護者 楠 弘之

六月四日、最後の県総体。剣道部旗にもある「気魄」のこもった熱い試合を、部員みんなが見せてくれました。試合後の息子の顔からも「やりきった感」が伝わ

り、さすがしさを感しました。コロナ禍でマスク着用を強いられた試合や稽古は、辛かったことでしょう。部活動と学校行事との両立も大変だったと思います。それでも、共に汗を流せる先輩・後輩がいたからこそ、乗り切ることができました。そして、中学校では経験することができなかった団体戦で戦う喜びを知ることができました。

幼い頃から続けてきた剣道を総体で区切りを付けるという覚悟が感じられ、残り数か月の成長には驚かされました。ひとまずは部活動を終え、新たな道に進み始めましたが、この経験はきっと役立つことでしょう。願わくば、将来また共に竹刀を交える日が来ることを楽しみにしています。

八幡浜高校剣道部の仲間、ご指導いただきました先生方、陰ながら支えてくださった関係者すべての方々に心から感謝申し上げます。

最後に……OBとして「繋いでくれてありがとう！」
保護者として「楽しませてくれてありがとう！」



PTA親睦ソフトバレーボール大会

愛宕 垣内 恭子

五月のPTA総会資料で目にした「PTA親睦ソフトバレーボール大会」の文字。近年、PTA行事が減少傾向にある中で、貴重な参加の機会に、いつか内が配られるのかと、密かに心待ちにしていました。

今回の大会は、実に四年ぶりの開催！私は、普段からソフトバレーをやっていますが、あれれ？今日は気合の入りが、あも？サーブもアタックも、アウトになつてばかり……。ですが、そんな私の凡ミスもカバーしてもらえらるほど、チームの皆さんの腕前が素晴らしい！！

結果は、「愛宕・松柏チーム」の全勝優勝!!普段の真面目そう

な雰囲気とは打って変わって、楽しそうにプレーする先生方の笑顔&珍プレーも、とっても素敵でした。

多くの方々との交流を図れた本大会。今回参加を見送られた皆さんも、来年度は是非一緒にプレーしてみませんか？最後に参加された皆さん、大変お疲れ様でした。来年もまた、このコートでお会いしましょう！



四国高等学校ワイプロ競技大会

ビジネス部 三年 西村 葉音

七月末に松山市で開かれた「四国高等学校ワイプロ競技大会」に愛媛県代表として出場しました。昨年は、出場が叶わなかった大会だったので、出場が決まった時は嬉しかったです。大会では入賞はできませんでしたが、団体で四国四位という好成績を残すことができました。

三年間の部活動は、仲間と共に一つの目標を目指すというよりは、自己研鑽に励むというものでした。毎日、少しずつ打ち続けることでここまで成長することができたのは、私にとってよい経験になりました。これ

先生、一緒に切磋琢磨した仲間へ感謝しています。後輩の皆さんも応援してください。これからも頑張ってください。



PTA理事

地区名	氏名
江戸岡	松井 成樹
	菊池 幸子
	清原 美幸
白浜・幸町	矢野 幸子
大平	日出山徳子
	川縁 由美
向灘	阿部 佳代
古町・産業通	繁木 麻由
	箱崎 美和
松柏・松尾・郷	田安奈緒美
	曾根 英子
	速水 由香
五反田	山下 静子
川舞・双岩	井上 千秋
真穴	楠本 恭子

地区名	氏名
日土	宇都宮裕子
喜須木	田中 和代
	大西 咲江
宮内	武内 勇
	藤原 慎二
川之石	井上 涼子
伊方	兵頭 千絵
	阿部 孝志
三瓶	菊池 香織
	菊池 美穂
宇和	鷺見 英治
	松本 茜
	三好 基文
大洲・喜多	辻 亜美
	松浦 真実
宇和島・北宇和・南宇和	岡本 慎二

令和5年度 Parent・Teacher・Association 役員

役職	氏名	地区名
PTA顧問	六條 公治	古町・産業通
PTA会長	川里 幸治	大黒町・新町・本町
PTA副会長	田中 昭光	江戸岡
"	田中須美恵	大平
"	谷 和代	江戸岡
"	成瀬 智文	大黒町・新町・本町
PTA監事	兵頭 麻季	大黒町・新町・本町
"	山内 武弥	松柏・松尾・郷
"	井上 敬子	真穴

(敬称略)

5月23日(火)
PTA理事会
(専門委員会)



川里会長を中心とした3役8名と各地区より選出された31名の理事、先生方で5つの専門委員会を組織しています。

校外生活指導委員会	研修・人権教育委員会	広報委員会	厚生保健委員会	学年委員会
委員長 田中 和代 副委員長 井上 涼子	委員長 阿部 孝志 副委員長 井上 千秋	委員長 山下 静子 副委員長 宇都宮裕子	委員長 速水 由香 副委員長 日出山徳子	委員長 岡本 慎二 副委員長 繁木 麻由

全日本吹奏楽コンクール四国支部大会 金賞 最優秀賞

吹奏楽部 三年 小野 恭佳

私たち吹奏楽部は魅せる演奏を目指し、真つ直ぐ音楽に向き合ってきました。その結果、全日本吹奏楽コンクール愛媛県大会において、金賞県代表、そして四国支部大会において金賞最優秀という結果をいただくことができました。

四国大会の出場が発表された時のステージから見た、喜んでいるみんなの姿を鮮明に覚えています。互いに素直に自分たちの頑張りを認め合い、たくさんさんの苦楽を共にできる仲間に出会い、さらに部長という立場でみんなと関わることで、幸せでした。小学生の時から9年間、大好きな音楽づくりにできたことを嬉しく思います。熱

心にご指導してくださった濱邊先生や外部講師の先生方、いつも温かく見守ってくださった保護者等の方々、そして一緒に暑い夏を過ごしてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。充実した毎日と素敵な思い出があり、ありがとうございました。



四国高等学校総体

水泳部 三年 下田 天海

八高水泳部の目標である、「四国総体全員出場」を達成して臨んだ大会となりました。私個人としては、二〇〇m自由形の決勝に残ることを目標としており、その目標も達成することができました。そして、二日目の最後の種目、八〇〇mフリーリレーで二年間リレーメンバーとして共に戦ってきた仲間たちとの最後のリレーを泳ぎ、私の競技人生が終わりました。

先輩たちがいなくなった一年生の時から何度も辞めたいと思い、水泳と向き合うことが辛くなる日々が続きました。そのような状況の中でも仲間の存在が心の支えとなりました。苦しい練習を共に乗り越え、切磋琢磨してきた

仲間の存在だけでなく、他校の生徒の活躍が刺激となりました。この十八年間水泳を続けてきたことは私の心の糧となり、今後の人生を支えてくれることと信じています。

最後に私の水泳人生を支えてくださった皆さん、応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。



北海道総体2023

陸上競技部 三年 梶原 泰心

私にとって最初で最後のインターハイは北海道で開催され、やり投と円盤投に出場しました。一年生の時、地区予選敗退という苦い経験をしました。その年、全国三位に輝いた吉良先輩の姿を見て、来年は全国に出場し上位入賞するという目標を立てました。

しかし、二年生の時肘の靭帯を損傷してしまい一年間投げる事ができませんでした。目標を失いかけてもう陸上をやめたいという気持ちになりました。そのような状況の中、陸上競技部の仲間や身近で支えてくれた人たちのおかげで、「インターハイ入賞」の目標を再び掲

げ、一から練習に取り組むことができました。結果は目標とはほど遠いものでしたが、とても素晴らしい経験となりました。ここまでくる事ができたのは支えてくださった先生、家族、そしてチームメイトのおかげだと、とても感謝しています。

大学へ進学後も陸上競技を続けます。自己ベストの更新を目指していきます。八幡浜高校陸上競技



部で得た経験は私の今後の大きな自信となりました。これからも感謝の気持ちを忘れず挑戦していきます。

弓道部 三年 木村 颯志

私は今回のインターハイでは、昨年度の全国選抜大会の結果を超えるという目標を掲げて日々練習してきました。結果は準決勝進出。少し悔しさが残る結果となりましたが、選抜大会の予選敗退を超えることができました。結果は振るいませんでしたが、とてもよい経験になりました。弓道部のみんなと過ごした三年間、たくさんのことがあり楽しかったです。私一人では、きつとここまで来ることはできなかったと思うので、仲間や先生方に感謝しています。

2023かごしま総文

文芸・新聞部 三年 古川 颯汰

今回「2023かごしま総文」に参加して自身の作品を見直すよい機会になりました。一日目は桜島を訪れ、桜島の特性や鹿児島文化を学びました。帰りのフェリーでみた桜島と夏の青空の景色は今でも明瞭に思い出せるほど綺麗でした。二日目は作家である出水沢藍子先生の講話では「小説の生まれ方」をテーマに小説を書く際に気を付けるべき点を教えていただきました。また、他の都道府県の高校生とグループを組み、今回出品された作品の合評会を行いました。合評会では互いに特によかった作品を共有し合いました。今大会では小説の書き方の他にも自身の作品と向き合うなど今

後の成長に繋げられるものになり実りあるものでした。



美術部 三年 三好 冴音

高文連で見た作品はどれもレベルが高く、刺激的でした。ただ一番おもしろかったのは、全国の同志たちとの交流です。当たり前かもしれませんが、交流した人たちの中には芸術系の大学を目指している、自分で名刺やホームページを作成し、アーティストとして活動していたり、コミケに参加し

たりする人もいて、見ている世界の違いに圧倒されました。とはいえ、八高美術部の歴代の作品が高文連全国大会レベルでも引けを取らないことも再認識しました。昨年度まで顧問だった務先生の指導力、美術部の仲間たちの実力は明らかに高レベルだと思えます。

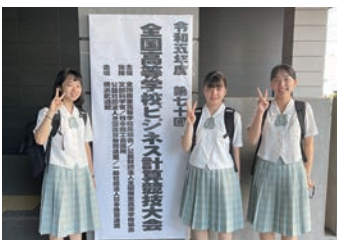
ここで得た自信を今後の制作活動に活かして、一日一画を描こうと思います。



全国高等学校ビジネス計算競技大会(電卓競技)

ビジネス部 三年 重松 沙希

担任の先生に誘われてビジネス部に入部しました。地道な練習が多く、成績が伸びないなど辛い時間も多々ありました。しかし、仲間と一緒に全国を目指すようになって三年間続けることができました。二年生の時に後輩が入部して三人で全国大会団体出場を目指し、切磋琢磨することができました。今まで応援していただいた先生方や両親、友達には連続して全国大会に出場してほしいです。最後の年に全国大会に出場でき、自ら目標を持つて頑張ることの大切さを学ぶことができました。これからも目標を持って成長を続けていきます!



全国高等学校ワープロ競技大会

ビジネス部 三年 上甲 悠鈴

八月に東京都で開催された全国高等学校ワープロ競技大会に出場しました。前日練習では普段通りに行うことができたのですが、初見の問題に弱いという懸念があった不安でした。いざ本番の競技が始まると、心配していたより指は動いたので安心しました。ただ、緊張からか焦りもあって、思うようにいかないこともありました。結果、エラー数が多くなってしまいました。総字数は満足でしたが、結果を残すことができませんでした。全国で勝ち抜いた選手たちと一緒に競技することができ、高いレベルに触れ、よい経験ができました。ワープロという競技は、一人で黙々とできるため、私に合っていたのだと思います。自分のペースで自己の設定した目標を目指して取り組めるため、継続することができました。この三年間で地道に積み重ねてきた結果、二年連続全国大会出場という結果を残すことができ、嬉しく思います。今まで関わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

